

2019年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
SS特別選抜コース	生徒一人ひとりの学力の伸長、及び希望進路の実現。	生徒一人ひとりの学力を把握し、教職員が共有する。	B	コース職員会・コース会での情報共有と各模試の結果報告。	コース生徒の様子やクラスの様子を含め情報共有をより向上させたい。
		個々の学習習慣(家庭学習)を定着させる。(1年)	B	個人面談・学級通信を通して意識を高めることができた。	取り組みの中で個人差が大きくなってしまった。個人面談での課題の明確をはかりたい。
		実態に即しながらも高い意識を持たせ、きめ細かい指導により、それぞれ第1志望校の現役合格をめざす。(3年)	B	模試データを参考に受験大学を選定したが、受験生の競争率の変動などの影響で進路実現しない場合もあった。	今の受験の特徴を生徒・保護者・教員が理解し、より多方面から多くのアドバイスができるようにする。
		「総合的な学習の時間」、「大学見学ツアー」等を通じ、進学意識を高め、目標を明確にさせる。	B	各担任によりよくなったと思う。クラス通信を使って家庭への理解も深めることができている。	より一層の進学意識を高め、目標を明確にさせていきたい。
		模試、8限、特編授業、サブリなどを活用し、個々の学力の伸長を目指す。	B	・サブリの活用に温度差がある。(生徒) ・8限以降の指導体制。(担任に負担)	・学校や家庭での自学自習に活用するよう促していく。(サブリ) ・曜日で時間担当を決める。(8限)
文理選抜コース	総合的な学力の向上を図るべく、計画的に高校生活を送り、主体的に自分の未来を拓く力をつける。	生徒一人ひとりの学力を把握し、面談を通して計画的に学習できるように指導する。	A	テストが終わるごとに1、2年共に担任面談をすることができた。	成績が伸びない生徒への支援をコースが考える。
		個々の学習習慣を定着させ、家庭学習時間を持たせる。	A	毎日の学習状況を担任が把握し、家庭学習ができていない生徒には声掛けを行った。	時間をかけるだけでなく、内容を充実させるにはどうすべきなのかを考える必要がある。
		キャリア教育によって、個々の生徒に適応した望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせる。また、生徒それぞれが創造的・創作的にテーマに取り組みプレゼンテーションを行い、ディスカッションを重ねることで、実践的な自己表現能力とコミュニケーション能力を磨く。	A	1年次の土曜授業では、「田舎力甲子園」への参加や松本をフィールドワークし、自分達の住む町について考えた。2年次は世界に目を向けEnglish Activityにおいて、オーストラリアなどの知識や見解を深めた。	職業観や勤労観に対する意識を更につけさせる。
		部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みと勉強との両立をさせる。	A	部活動や生徒会活動に参加する生徒が多く、それぞれで活躍している。	一部の生徒だけではなく、コースに所属する全員が勉強以外にも充実させられるものがあれば良い。
学術探究コース 総合学術系統	生徒が潜在的に持つ知的好奇心を喚起し、主体的な学習意欲、探究心、問題発見意識などの向上を図り、多様な価値観を大局的な視野で理解し受け入れながら、周囲と協働しながら課題解決を図れる人材を育成する。	確かな学力、探究心の育成を目指し、授業の充実を図り「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を行う。	A	年間3回の模試を行い、生徒の成績や学習状況などを継続的に把握することが出来た。また模試に関しては、特別授業なども活用し、事前および事後指導を確実に行うことで、生徒のモチベーションを高めながら学力向上へと繋げることができた。コース会では、模試の結果を分析し、次に繋げることもできた。	来年度は、全学年が揃うので、今まで培ってきたことを、どのようにして全体の活動に繋げていくのかを考えていきたい。
		キャリア教育を行うことで、1人1人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。課題研究、プレゼンテーション、ディスカッションなどの経験値を積み上げることで、知識から正解を素早く出すことよりも、解決すべき課題を発見する力や、学び続ける強い意志、協働により課題解決の道すじを切り開く力を育成する。	A	1年生は、土曜講座でのキャリア教育、2年生は、東京で行われたディベート大会に初めて参加した。周囲のレベルの高さを実感し、今後の大きな指針とすることができた。それぞれの活動から、設定したテーマに対し、主体的に、また周囲と協働して、その問題解決に向けて取り組んだ。論理的な思考を重ね、プレゼンテーションを行うことで自己表現能力を磨いた。それらのことを、ディスカッションすることで、コミュニケーション能力の育成に結びつけることができた。	2年生および3年生は、ディベート大会など、校外での活動で成果を上げられるように、専門家のコーチングも活用しながら、より活発な活動としていきたい。1年次の土曜講座で行われるキャリア教育も引き続き有意義なものとしていきたい。
		部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、多くの人間が関わり合うことで、それぞれの持つ個性を洗練し、確固たる「自己肯定感」を有する生徒を育成し、現代の社会に適応できる「人間力」の実現を目指す。	B	部活動や生徒会活動などを通じ、周囲に人間と協働することの大切さと、多様化する価値観への対応力、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。困難や環境変化に対する、対応力や忍耐力、他人のために頑張ることの大切さ、そこから来る充実感の重みを実感として学ぶことができた。	課外活動での経験や力を、どのようにして学力と結びつけて、多くの生徒に進学に於いて利用するであろう、総合型選抜や、学校推薦型選抜などに繋げ、その先にあるグローバル社会の中で、生徒達がどう有効的に活用し、それぞれの道で生き抜いていく力に繋げることができるかを考えながら活動を促していきたい。
		教員自らが教科指導力を高め、授業の質的向上を図る。	A	コース会において、コース所属生徒の学校生活の様子や授業態度、成績などの情報を共有し、それぞれの授業運営の参考にすることができた。コース内の教員同士の授業見学を行い、お互いに意見を交換することが出来た。	コース内での研究事業や、意見交換会などでお互いのノウハウを共有する。先進校などの取り組みを視察し、その他の研修なども活かして本校の教育活動繋げていきたい。

2019年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
学術探究コース 美術工芸系統	希望進路の実現。	キャリア教育を踏まえ、進路実現のため、適切な支援を行う。	A	美術系大学、専門学校等進学、身に付けた力を活かした就職という意識付けで指導を心掛けた。	
		専門実習の充実と共に学力向上、美大入試科目の充実を図る。	A	発想力、基礎力の強化、必要となる学力の向上に努めた。	
		アートセンター(美大予備校)及び美術大学との連携。	A	講習会をはじめ連携した指導ができた。	
	生徒の心身の充実。	教員間の密接な連絡による適切な生徒相談を行う。	A	教員間の連絡、情報交換、連帯が出来ている。	
		美術・工芸を通した生徒の向上意欲の増進、成長を図る。	A	信州ワインサミットに壁画を描き、社会貢献、表彰された。	
	生徒作品の充実。	公募展に積極的に挑戦したり、更なる美工展の充実を図る。	A	中信美術展入賞多数・デザインコンクール入賞・美工展は充実した。	
		様々な機会を設け、生徒達により多くの優れた美術・工芸作品に触れさせるよう努める。	A	美ヶ原高原美術館、軽井沢現代美術館の見学をした。	
	生徒募集活動の活性化。	美大進学—就職を意識した、募集活動の検討、実施。	A	「美術を学ぶ意味」と題しての講演、美大進学後の就職を見据えた進路指導を心掛けた。	
美術大学と連携して中学生に対するキャリア教育の検討。		A	東北芸術工科大学の木原教授を招いて講演会の実施		
学術探究コース 専修学術系統	学力向上・人間形成。	基礎学力の定着を図る。朝ドリルの徹底。	A	国語・数学・英語に関しては切れ目なく各教科担当の先生方にテキストを用意して頂き、週末に各顧問のチェックを確実に遂行した。	この方針のまま継続していき、レベルを上げていきたい。また、基礎学力の定着が図れているかチェックできる機会を設けたい。
		「家庭学習の徹底」を身に付けさせるべく、各教科とは別にクラスでの宿題を課していく。	B	宿題等の指示がないと、なかなか日々の取り組みに定着がなされない。	よって各教科担当の先生方に課題を出して頂く。生徒によっては宿題等を望んでいる生徒が多数いる。
		授業等だけではなく、日々の生活面を通して人間力の形成を図る。規則正しい日常生活の安定。	A	概ね良い。	概ね良い。
	学力・競技力向上の文武両道。	学力・競技力を常に比例させ、日々の「基礎課題」に向き合わせ、自分の「土台作り」を徹底させる。そのためには「継続」の言葉の意味をより理解させた、人間力の向上を意識させ育成に取り組む。	A	概ね良い。	概ね良い。
進路先の目標設定。	1年次より希望する大学を(学力・スポーツ問わず)設定させ、外部模試等をより活用し上位校の進学意識を高める。	B	1年次ということもあり、模試等の実施が少なかったため、目標設定を明確に出来た生徒とそうでない生徒との温度差が出てしまった。2学年は1年次からの面談の成果が少々みられてきており、より実現に向け取り組みを強化していく。	模試を各部活と調整をし、できる限り、年間3回を目安に、2年次には受験をさせて進学意識を高めたい。目標を具体的に設定をさせていきたい。3学年となる一期生は進学の意識づけは出来ているので今後より本人の実力に見合った進学先を具体化させる。	
スポーツ サイエンス コース	競技力・競技実績の向上。	競技ごとに目標設定をし、目標達成に向けて指導計画に基づいた段階的な指導を行う。生徒個々の特徴をより引き出せるような指導法を日々探究する。学校内における様々な機関と連携を取り、各部に合った柔軟な指導体制を確立する。ハード面の整備を目指す。	A	トレーニング機器等も毎年更新されてきており、各選手も各々に自主トレーニングを行う姿勢が以前に比べ格段に増えてきている。	個々のトレーニングを自ら設定させ、各顧問を中心としてメニューを抜粋していきたい。
	学力向上・人間形成。	基礎学力の定着が不十分な生徒に対して、継続して学び直しの機会を設け、復習をさせることで基礎学力を定着させる。上位層を伸ばす為にも家庭学習をより習慣化する。自立した生徒を育成し、コミュニケーション能力の向上と集団の中でリーダーになれる人材を育成する為に、定期的に強化部による集会などを開催し、スポーツ以外の教育活動を工夫していく。	B	宿題等の指示がないと、なかなか日々の取り組みに定着がなされない。	各教科担当の先生方に課題を出して頂くように、担任含めコースの先生方の協力して御願いに当たる。
	希望進路の実現。	競技力・競技実績の向上と、学力向上・人間形成を両立させることで希望進路を実現させる。生徒に適した進路選択を考えさせ、実現に向けた支援を学年や担任と連携を取りながら行っていく。進路開拓の為に大学訪問を積極的に行う。各部独自のセレクションに対応すべく、進路研究を行う。	A	概ね良い。	各顧問が積極的に各大学等の交渉に挑め事は良かったが、強化部5競技でより、今以上に「飛躍」していく事が今後のより良い進路決定・開拓につながると感じる。
食物科	高いプロ意識を持ち、食生活の向上及び食文化の創造に貢献できる調理師の育成と、希望進路の実現。	実習や様々な行事を通して、社会人として必要なマナー、協調性、忍耐力、コミュニケーション能力などの力を身につけさせる。	A	文化祭や総合調理などの授業、また作品展など様々な体験を通して、協調性やコミュニケーション能力を育むことができた。	引き続き様々な機会を通して、社会人として必要な資質を養っていきたい。
		3年間を通して知識・技術の定着を図り、応用力を養う。	A	1年生の基礎調理や弁当製作、2年生の西洋コース料理や文化祭の食堂、そして3年生の総合調理や作品展において、生徒達は学んだことを応用し、イメージしたものを表現することができた。	様々なジャンルや形態の料理を学ぶ中で、多彩な視点を持ち、料理の幅を広げていけるような指導をしていく。
		きめ細やかな指導により早い段階から目標を持たせ、希望する進路の実現を目指す。より一層の進路開拓を行う。	B	OB・OG講演会や外部講師講演会等の開催により、進路への意識づけができた。コロナウイルスの感染拡大により、何名もの生徒がインターシップを断念せざるを得なかったのが非常に残念であった。	引き続き進路開拓を行ない、生徒が希望する進路の実現を目指す。

2019年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
1学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材になるための基礎固め。	高校生としての基本的な生活習慣を確立させる。	A	ポイント指導で学年面接になる生徒はいなかった。遅刻常習者は少なかった。	遅刻常習者0を目指して指導を徹底する。
		学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。	B	担任を中心に科・コース・系統ごと、それぞれ策を講じた。	さらなる努力を積み重ねていきたい。
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する。	B	球技クラスマッチの運営を体育委員に任せ、スムーズな進行をバックアップした。	このような機会を増やしていき、主体的に行動できる人材を育成していく。
		他者への思いやりの意識を持たせる。	A	性に関する教育講座などを通じて、自己肯定感と共に他者への思いやり意識が向上した。	日常生活の中でも機を見つけて生徒たちに訴えていく。
		将来の進路について意識させる。	A	「職業理解のためにガイダンス」の講師をOB・OGを中心に、実際に働いている方をお願いした。その結果、生徒たちの大きな刺激となった。	来年度も進路ガイダンス・模試などを通じて、進路意識の向上を図っていく。
2学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材を育成する。	高校生としての基本的な生活習慣を確立させる。	A	遅刻者が少なく、年間を通して規則正しい生活を送ることができた。	3年次、部活動を引退した後、文化祭前後、入試前後の生活に注意する。
		基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める。	A	家庭学習の時間が増えた生徒が1年次に比べて多くなった。	基礎学力をもとに、入試に対応した学力をつける。
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する。	A	部活動やHR活動、そして生徒会活動を通して育成することができた。特にクラスマッチの運営を生徒が主体となって行った。	進路実現のための基礎。自分自身の考えに責任を持たせなければならない。
		自己はもちろんのこと、他者への思いやりの意識を持たせる。	A	いじめ・からかいアンケート、各HRにおいて確認できた。	進路関係で合否が出てくる時期こそ、他者への思いやりの力が必要となる。
		将来の進路について意識を向上させ、実現のための行動をさせる。	A	年数回のガイダンスと各HRレベルで意識付けができた。	親とも連携をとり、生徒の力と希望に合わせた進路指導を実施していかなければならない。
		沖縄研修旅行を通して、平和に関して意識させ、考えさせる。	A	計画的に進められた。旅行記の作成もできた。	今年同様、年間を通して計画的に実施できるという。
		18歳選挙権に対応できるように主権者教育を行う。	A	学年集会形式で選挙の大切さを伝え、授業の中でも取り扱った。	生徒たちが政治・経済に関心を持ってくれることが大切。
3学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材の完成。	基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める。	A	定期テストを通して基礎学力の定着を図り、校外模試や特編授業を通して学力を高めた。	
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する。	A	生徒会活動、部活動を通して自ら主体的となって行動できるようになった。	
		自己はもちろんのこと、他者への思いやり意識を持たせる。	B	多くの生徒が思いやりを持って生活できていた。	
		希望進路の実現。	B	多くの生徒が第一志望校への進学、就職を決めることができた。	
生徒会	生徒会活動の充実。	生徒だけでなく教職員の意識も向上するように働きかけをする。	B	生徒も教員も生徒会に対する意識を向上させることができなかった。	それぞれの委員会活動を充実させ、顧問と生徒でしっかりと検討するようにしたい。
		日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案等していく。	A	意見BOXを配置し、全校生徒1人1人の意見を聞ける環境を作った。	継続していきたい。
		東日本大震災の復興支援やインターアクトクラブなど、学校外に対する活動を充実させる。	A	インターアクトクラブでは、東日本大震災の被災地である宮城県に研修することができた。また、台風19号による長野県の被災地にもボランティアに行くことができた。	継続していきたい。
	文化祭の成功。	生徒の自主性や主体性が発揮されるような文化祭になるよう助言をし、生徒たちが達成感を得られるような文化祭にする。	A	生徒STAFFがしっかりと準備し、自分達の文化祭を成功させるという意識をしっかりと持たせることができた。	準備を早くし、全校1人1人が充実した気持ちになるようにSTAFFだけではなく、全校が携われるように運営していきたい。
課外活動の充実。	充実した課外活動になるよう、様々な面における現状にあったサポート体制を構築し、さらに発展させる。	A	体育会系の団体も文化会系の団体も向上心を持って活動できた。	全国選抜、全国選手権がコロナウイルス関係で中止になった。来年度はそこを目指して活動をしたい。	

2019年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
生活指導部	学校目標に則った生徒の育成。	いじめや差別がない学校作り、ならびに早期発見と早期解決。(生活相談と連携)	A	全校生徒対象の定期的なアンケート実施により迅速な対応ができた。生徒一人ひとりに耳を傾け対応できた。	
		悩みを抱えている生徒への配慮、ならびに相談体制の充実。(生活相談・特別支援と連携)	A	生活指導・生活相談・特別支援が連携し対応できた。相談しやすい場所づくりと、話しやすい教師の対応を整えることができた。	
	先生方の実効性ある指導が奏効するための下支えとなる基本的生活習慣の定着。	学力向上・部活指導・進路指導が効率的に指導されるための生活指導。	A	各担当部署と情報を共有し効果的な活動ができた。	
		教職員側が足並みを揃え、生徒にとって納得が得られる指導方法の構築。	A	報告・連絡・相談により構築。	
	現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実。	男女交際に関する教育ならびに性教育の充実。	A	教育講座を主に事前・事後学習が継続的にできた。	教育講座の開催時期や回数精査。
		情報通信端末類ならびにネット(SNS・ブログなど)の使い方に関する指導の充実。	A	集会や教育講座などを活用し啓発活動ができた。	
	問題行動に対する適切な指導と迅速な対応。	学年会との連携による有機的な指導の検討。	A	報告・連絡・相談により有機的な対応ができた。	
		懸念や指摘(被害や苦情)に対する迅速な対応ならびに周知徹底。	A	教職員間の情報共有により迅速に対応できた。	
	盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底。	校内での盗難の抑止。	A	貴重品管理預かり・校内巡視などを継続実施。	
		自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップ。(交通安全)	B	駅前指導・登下校指導・校門指導などを継続実施。	危険な行為や場所の確認と周知徹底など、予防指導の充実。
生活指導方針の周知・徹底。	在校生と保護者への積極的な情報提供。	A	全校・学年・クラスなど段階ごとの活動ができた。		
	受験予定者と保護者への積極的な情報提供。	A	中学校講話講師派遣や保護者ハンドブック配布などにより周知・徹底できた。		
進路指導部	生徒が、学校活動(授業・生徒会活動・課外活動・クラス活動等)を通し見出した適性や個性を、十分に発揮できるような進路選択をし、各自の目標を達成できるよう指導する。	進学、就職についての情報提供とそのための企画・指導を実施する。	B	進学対策としての「共通テスト受験者対象説明会」「信州大入試説明会」、就職希望者対象のガイダンスなどは有効であったが、学年単位での集会、ガイダンスについては概略的紹介はできて、生徒の希望進路が多岐に及んでいるため、生徒一人ひとりへの対応が不十分である。情報誌、入試過去問の提供についても四年制大学進学に偏りがちである。	通信や資料など、よりきめ細かい内容にするよう努力する。看護、福祉施設体験の斡旋や公務員試験対策以外にも職業理解につながる説明会やガイダンス等を実施する。また、保護者向けの進学説明会も充実を図る。
		生徒の希望進路について把握し、生徒の目標や悩みを把握しつつ、それらの情報を教員間で共有できるよう努める。	A	3年生については、進路希望調査や3学年会を通し、生徒の希望を把握しつつ生徒の進路実現をサポートできた。2年生については、6月、12月の進路希望調査を通して、生徒個々の進路実現意識の向上を促せたと思う。	希望進路について迷いがあったり、方針が定まらない生徒について学年、担任と協力しつつ面接回数を増やすなどしてサポートを強化する。
		希望進路実現のための受験対策と学力向上のための方策を実施する。	A	個々の志望校に対応した入試過去問を準備したり、面接試験対策の練習を繰り返すなど個別指導をした。今年度はSS特別選抜コース以外の科・コースにも一般入試受験者が多かったが、対策がクラス・コース別にならざるを得ず、教員間の協力体制がとりにくい。	新しい科・コースの一期生でもあるので学力向上委員会ともタイアップして、一般入試を目指す生徒のサポートを充実させてゆきたい。

2019年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
教務部	他部署との連携を図る。	文書・選択表等を期日を決め確実に集める。	A	時間割係を中心に選択調査を一元化し、PCへの記入も一本化できた。	進路検討も含め生徒自身が自分のこととして真剣に考えられるように面談などを充実させたい。
		授業変更・自習監督の円滑化。	B	ほぼ円滑に実施できたが、曜日教科によって変更監督が固定化してしまった。	選択授業・習熟度が減っていくので、授業変更を中心に円滑化したい。
	来年度カリキュラムと新課程カリキュラムの完成。	学科コース主任会との連携。	B	教頭を中心に連携はできた。	更に緊密な連携を模索したい。
		各教科との連携。	B	時間割係からの早い連携で円滑化が図れた。	教科会での検討を計画的に実施し、連携を図りたい。
	学力向上を目指す。	特別授業の充実・新テストへの対応。	A	科・コースの協力のもと夏期は前年度より充実できた。学力向上への観点から実施されている。	コース・システムの学力向上計画に合わせた特別授業の実施と平常の授業のレベルアップを図る。
	年度変更への対応。	通知表・生徒調べ等書類の見直し変更。	A	早い段階で教職員の意見を聞け、変更できた。	西暦表記について次回変更時に検討する。
	成績処理の円滑な運用。	担当が把握しやすい処理の流れを構築する。	B	成績に関係する資料等の作成が、担当がスムーズにできるようになった。	より使いやすいシステムを構築する
	成年年齢18歳引き下げに伴い主権者としての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な知識・資質を養う。	全校で10月に行われる憲法人権平和教育集会の事前・事後学習を計画的に行い、理解を深める。	B	10月に憲法改正問題についての講演会を実施した。内容は難しい点もあったが、関心を高めることができた。	生徒に考えさせる内容の取り組みをしていく。
		2学年で行う主権者教育を計画的に行い、選挙権だけでなく、権利と責任について考えさせ理解を深める。	A	2学年中心に学年集会を開催し理解を深めることができた。	継続して実施していく
		2学年で行う平和教育を計画的に行い、12月の沖縄研修旅行につなげていく。	A	2ヶ月前連絡の徹底。	更に緊密な連携を模索したい。
	行事企画の円滑な運営。	ミスをなくす。	B	細かな点まで完璧とはいかないが、ほぼミスなく運営できた。	複数の視点で点検をする。
		反省の集積。	A	各行事を教務を中心に計画することにより反省を次年度以降に集積できた。	USB等に記載を早めにしていく。
		適正な定員確保のための入試。	B	総合学術で推薦基準を変更	受験生確保のため更に検討する
	間違いのない教科書選択。	基準の検討。	B	総合と美工で一般入試実施せず	定員数など受験生確保のため更に検討する
		入試内容の検討。	B	早めの提出の呼びかけや教科主任の先生方の協力で、期限を守っていただくことができた。	今年度と同様に続けていく。
円滑な教科書販売ができるような支援。	各教科・教科主任との連携 確認の徹底、教科選択の期限厳守。	A	教科書取り扱い業者の変更の影響があり、確認作業などがうまくいかないことがあったが、学校でできることは着実に取り組むことができた。	業者の方に、より本校の科コースの授業選択について分かりやすく説明していきたい。	
	図書視聴覚部	視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚教材の充実と利用を促進する。	B	修理・補修の多い年度であったが、関係各所の協力の下、できるだけ迅速に対応できた。	経年劣化が進む各機材の修理更新など、計画的に行っていきたい。
図書利用の活発化。	利用しやすい図書館内の環境整備。広報活動の充実。委員会活動の活発化。	B	「図書館だより」を発行し、委員会時に配布した。図書委員会の当番活動など、委員会活動がより活発になってきている。	バーコード化を進めること。各クラスの図書委員と連携し、図書館内の環境整備、広報活動に努める。	
読書活動の推進。	生徒が親しみやすい本の選定。読書週間を設ける。	B	推薦図書、高校生に人気がある文庫本を購入した。「七夕」「ハロウィン」「クリスマス」の時期に合わせてイベントを企画し、図書館利用の推進を行った。	「読書週間」など期間を設定して、全校で本に親しむ機会を設けたい。様々な視点から良書を選定していく。	

2019年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
環境衛生部	生徒の心身の健康問題の早期発見・早期対応。	検診で指摘を受けた生徒への年3回の受信勧告と顧問への勧告を行い、各科目標受診率を達成する。	B	顧問からの勧告を年2回実施。視力受診率は63.3%と昨年度より向上したが、歯科受診率は16%と低かった。	歯の重要性を伝える保健だよりを作成し、歯科受診率の向上を図る。
		感染症り患者が出た場合、早期に全職員へ周知徹底し、生活習慣を見直させる指導を促し、感染拡大防止措置をとる。	A	インフルエンザ罹患者26名(2月末)。2クラスの迅速な学級閉鎖により、大きな流行にならなかった。新型コロナウイルスの予防としてアルコールの手指消毒をクラスごとに配備した。	引き続き換気、手洗い、うがい、咳エチケットの指導を繰り返し行い徹底を図る。
	健康啓発活動の充実。	セルフメディケーションを意識した保健指導を行い、生徒の健康意識と自己責任能力を高める。	B	保健室を利用した生徒個々に応じたセルフメディケーションを伝えることができた。	引き続き浸透させる。
	学習環境の整備。	教师生徒による全校清掃の徹底と、校内巡視による校内美化の注意喚起を行う。毎日の掃除に窓ふきを追加する。	B	行事前の清掃の徹底も行い、校内美化に取り組めた。特にトイレは保健委員会による清掃点検により清潔が保たれた。毎日の窓ふきが徹底されない教室もあった。	各クラスの清掃分担場所の適正な配分の計画を立てる。定期的な雑巾の入れ替えを実施する。
	資源の再利用。	ごみの減量化のため、裏紙利用の徹底を行う。ごみの分別の徹底と、資源の有効活用を行う。	A	清掃委員会・環境委員会と協力し、校内基準での分別、紙製品・紙バック・ペットボトルキャップの回収ができた。	継続して行う。
防災意識の定着。	年2回の防災訓練の実施。入学時作成した、登下校における災害発生時の初期避難対応について確認、修正を促す。調理室の防災自主点検の実施。	B	年2回の防災訓練を実施し、防災の意識付けができた。敷地拡大により設けた、避難場所へのより安全な避難経路の見直しが必要。	避難経路の見直しとともに、避難場所の見直しも行う。調理室の防災自主点検の記録表を作成し、記録をつけるようにする。	
渉外部	教職員、会員相互の連携を図り、より良い活動を展開する。	学級・学年PTA活動の充実。	A	4月の学級・学年PTAでは、多数の保護者の方に出席していただくことができた。学校と家庭のよい情報交換ができた。3学年の保護者対象に、よりよい進路選択が実現できるよう、進学・就職希望分かれて説明会が行われた。	子ども達がより一層充実した学校生活が過ごせるよう活動していきたい。
		地区PTA活動の充実と参加人数増。	B	各地区ごとに有意義な交流がなされた。開催地区は昨年に引き続き少なめだった。	各地区とも必ず年一回の開催を実現していきたい。
		委員会活動の推進。	A	各委員会ごと、年間を通じて、充実した活動できた。	より一層充実したPTA活動を行ってきたい。
		PTA研修の充実。	B	今年度は、台風19号の影響を受けて中止とした。	来年度は、多数の保護者の方に参加していただけるよう計画を立てる。
		総会及び役員会の参加人数増。	A	総会では、昨年に引き続き、多数の保護者の方に出席していただいた。食物科3年生が作るお弁当は好評であった。	より充実したPTA活動ができるよう努めていきたい。
	中信地区私学助成推進協議会の活動を展開。	陳情活動の充実。ならびに助成水準の現状維持を図る。	A	例年通り確実に補助の継続・増額がなされるよう、陳情活動などを行った。	来年度事務局を担当担当するため、他校との連携がスムーズに行えるように、引継ぎ等確実に行っていきたい。
	同窓会組織の充実活性化。	総会への参加者を増やす工夫をする。先生方の協力を仰ぐ。	A	教職員と卒業生への呼びかけ強化。	役員メンバーの若返りを少しずつ行う。
同窓会役員と連携を取りながら更なる組織の充実化、活性化を図る。事務局設置を検討。		A	事務局設置の方向で検討中。	他私立校の同窓会運営等も調査する。	
同窓会役員会(年2回)開催。		A	60周年式典へ向けた役員会開催。	今後も同窓会の活性化で協議継続。	
安全管理委員会・個人情報管理委員会	学校内の安全を維持し、災害やトラブルを未然に防止するための諸活動を行う。	あらゆる災害やトラブルを想定したマニュアルの点検と浸透のための諸活動を、機を捉え行う。	B	マニュアルを使用する事態に至らなかったことは幸いであるが、常なる見直しと共有が必要である。	来年度においては、見直す(血液を通しなおす)機会を設けたい。
		教職員側の教育活動における人道的観点の維持と浸透を保つ諸活動を、機を捉え行う。	B	係が常に生活指導部・特別支援に関わり、危機管理面での共有ができている。	来年度以降においても、報告・連絡・相談を重視していく方針に変わりはない。
	校内の教育活動において各教職員が「個人情報の保護に関する法律」ならびに「長野県個人情報保護条例」など関係法令を遵守する環境を整備する。	本校の『生徒を引率するために職員自家用車又は公用車を使用することに関する規定』に添う引率ができているか日常的に点検し、機を捉え教職員内での再確認をする。	A	これに関する教職員の意識が高まっている。	継続して行う。
	『個人情報の取扱ならびに管理方針(プライバシーポリシー)』の点検と浸透のための諸活動を、機を捉え行う。	C	教職員が日常的に使用するUSBフラッシュメモリ等の取り扱いに不安を感じている。	来年度においては、確認事項としての内規を作成し、これの合意を達する必要がある。	
	上述の管理方針とは別に設けている『日常的教育活動におけるガイドライン』に沿って教職活動が行われているかについて日常的に点検し、機を捉え教職員内での再確認する。	A	これに関する教職員の意識が高まっている。	継続して行う。	
教職員の取り扱う「PCならびにPC用外部記憶装置(主にUSBフラッシュメモリ)など」の取扱いと管理に関して厳密に遵守する環境を整備する。	『管理方針』に沿って遵守しているかについて、機を捉え確認する。	A	これに関する教職員の意識が高まっている。	継続して行う。	
学校衛生委員会	健康課題の把握・対策。	情報交換会を開催し、専門の立場からの助言をもとに対策をたてる。	A	校医の先生方に1年間のまとめを送付し、情報を伝えた。	引き続き次年度も行う。

2019年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
広報企画委員会	生徒募集ならびに本校の良さのアピールに有効な広報の手段(媒体と内容)を考え、それを連動させた年間計画を立て、予算の範囲内で効果的な広報活動を行う。	冊子類(スクールガイド)・新聞広告・チラシの作成、ならびに、それらが進路講話や学校説明会などと連動した構成になるように組み立てる。	A	「自分は真面目、他人に親切」に納得し、本校の教育内容に魅力を感じた受験生を増やすべく努めた。	来年度以降においては「奨学生・推薦入試での出願85%以上」を達成したい。
		各科・コース・系統の内容・魅力が伝わるよう、各科・コース・系統との連絡・確認を密にする。	A	科コース系統主任会を通じ、連携を密に取ることができ、多くの協力を得られ、主体的に展開していただいた。	来年度以降においては、効果的な広報について更なる研究をし、予算内での効果的な広報を展開したい。
		上述した内容が本校HPに反映されるよう改定と更新を進め、HPにおいてはリアルタイムでの発信をしていく。	A	HP担当の教職員に積極的かつ主体的に取り組んでいただき、スピーディーで良いHP更新となった。	情報発信の質と量が今まで以上になるよう、教職員間での一体感(熱量)を高めたい。
		2020年度の本校入試においては「奨学生・推薦入試での出願数」を「定員に対して80%以上」を目標とし、これを達成したい。	A	「推薦入試での83%」が達成できた。	進路講話でのさらなる開拓を進めたい。
部活動後援会	クラブ活動を通しての心身の育成を促す。クラブ活動全般に対し助成を行う。クラブ活動を通じての生活指導の研究、実践。競技力向上のための正しい指導法の研究。	適正に補助金を支給する。 部室の施設の管理を徹底する。	A	補助金を適正に支給した。	引き続き次年度も行う。
学力向上・新テスト担当委員会	過去3年間において立案してきた個々の計画をルールに乗せるための諸活動を行い終え他の分掌に移管し終えたが、これらを委員会として全面的にバックアップする。	その諸活動の成果として、いわゆる「『基礎学力』の定着が不十分」と判定された生徒に対して「『基礎学力』の定着」が図れるよう、これを主管する教務部と連携する。	B	担当した教員の頑張りもあり「基礎セミナー」は軌道に乗りつつある。	継続したい。
		「高校生のための学びの基礎診断」ならびに模擬試験などによる結果を踏まえ、PDCAサイクルの対策を各教科に依頼し、まとめ、実行するよう、これを主管する進路指導部と連携する。	B	外部模試の実施が定着した。	この結果をもとに各教科でPDCAサイクルが回るように、働きかけをしたい
		『DAIICHI STANDARD』の利活用と定着を本校の風土とする。	B	各教科の協力もあり『DAIICHI STANDARD』を改訂した。	この冊子を「入学前プレ課題」としてのみではなく、入学後の利活用も広げていきたい。
		上記の諸活動の成果として、いわゆる「学力の三要素」が伸びるよう、これを主管する進路指導部と特に連携し、この意識が生徒と教員の両方に「学校の風土」として定着するよう、あらゆる機会を捉えて発信し、これに努めていく。	B	暗中模索のような状態が続いた。しかしながら、委員会の中では意見がまとまりつつある。	今後も継続していきたい。
	やがて導入される「新テスト」について引き続き研究し、その対策としての諸活動を行う。	情報の収集と分析に努め、職員の研修会を行い共有する。特に進路指導部と連携し、各教科に依頼する対策案をまとめ、これらを練り上げ、実行する。	B	大学入学共通テストの「外部英語検定」も「記述式」も国の方針転換で未実施の見通しとなった。	しかしながら、校内での担当部署としてかなりの研鑽を積むことができたことは良かった。継続したい。
		その諸活動の成果として、いわゆる「学力の三要素」が伸びるよう、これを主管する進路指導部と特に連携し、この意識が生徒と教員の両方に「学校の風土」として定着するよう、あらゆる機会を捉えて発信し、これに努めていく。	B	「新たな学び方」、「新たな教え方」に関する研鑽を委員会として積むことができた。	職員での共有を進めていきたい。
今年度においては、「JeP」「CEFR」「ICT教育」などについて全教員が共有・促進できるように全力を傾注する。	その諸研究における主管を、「JeP」については進路指導部に、「CEFR」については英語科に、「ICT教育」については当委員会を主管とし、その研究と教員間の共有ならびに促進に努める。	B	大学入学共通テストの外部英語検定については国の方針転換により未実施の見通しとなったが、本校内には積極的に受験する雰囲気広がった。	英語科と協力しこの雰囲気さらに定着させていきたい。	
「総合的な探究の時間」ならびに思考力と探究心を伸長するための研究を各教科へ依頼し、提示していただく。	移行措置も踏まえた「総合的な探究の時間」においては、奏功する内容と質について各科コース系統ならびに各教科に依頼し、これを当委員会がまとめる。	B	未把握の部分があり、まとめ切れていない。	来年度中にはまとめたい。	
	思考力と探究心の涵養のための授業実践を各教科会に依頼する。	B	研究授業を実施するなどの提案をした。	来年度中にはまとめたい。	
国語科	学習を総合的に進め、思考力をのばし言語感覚をみがき心情を豊にし言語文化に対する関心を高める。	漢字検定全校受験によって、漢字や語句の定着や実力アップをはかる。	A	・過去問を解くなど、現代文の授業なども活用して、生徒の目的意識向上に繋げることが出来た。 ・夏に行われる第2回目の希望者対象の受験も定着してきているので、冬の第3回の受験についても考えていく。	・漢字検定を資格の1つとして、進学および就職に活かしていくための意識付けをさらに進めていきたい。 ・漢字、語句の習得は、基礎学力の土台となることをより一層生徒に意識付けをし、普段の授業での小テスト、各学期の考査の中で力の定着を図る。
		小論文模試などを活用し、自己表現力を磨き、入試に必要なスキルを身につける。	B	・今年の3年生は実施しなかった。 ・個々の進路に対応した個別指導は例年通り行った。 ・国語表現の授業も有効に活用することができた。	・入試制度改変に伴い、また新指導要領導入に向けて対策を立てていくことが大切である。 ・学年主導でなく、学校全体の進路として体系的に取り組む必要がある。・コースによって意識の差をどう改善していくか。
		テキストの音読、読解などを通じ、読む力、書く力、話す力を総合的に深く身につける学習を目指す。	A	・各科やコースに合わせ、個々の進路に結びつく実力を養成することが出来た。 ・古典では一部コースで習熟度別授業を展開し、その他の単独コースは、生徒それぞれのレベルに合わせた授業を行うことできめ細やかな指導を行えた。	・文学を読み解くという国語の持つ普遍的性格や役割と、コミュニケーション能力のスキルアップに繋がるための、今求められる国語としての役割を、バランス良く授業の中で展開していく。
		一般・推薦・AO入試等に対応できるように、個々に応じた指導を行う。新テスト導入に対応できる今まで以上に考える力を育成していく。	A	・推薦やAO入試に対しては、各教員がそれぞれの生徒に志望校に対してきめ細やかな指導が行えた。 ・学力向上に関しては、授業力のさらなる向上について話し合うことができた。 ・8限時河合塾の古漢サテライト実施。2、3年生を対象とし、SS以外の他科コースからも受講者がいた。	・入試制度の変化や、新指導要領に対応できるよう、教科内でより一層検討を深めていく必要がある。 ・授業のさらなる質の向上を目指し、それぞれの教員の持つノウハウを、柔軟に教科内の授業見学などを行う。

2019年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
地歴公民科	教科指導の充実。	授業内の指導を最重要とし、生徒に興味・関心を持たせるような指導の向上を図っていく。	A	テスト結果によって、補習、追加テストを実施し、理解を深めさせた。	ICT教材を活用して、興味関心を高める。
		各科目の教育目標を達成できるように、すべての生徒へのきめ細やかな教科指導を意識する。	A		
		思考力・判断力・表現力を育成するよう、授業やテストを工夫する、一高スタンダードの活用。	B	授業やテストで高めているが、まだ不十分な点もある。	良い点は継続し、新たな取り組みを研究実践する。
	成年年齢引き下げに伴い、主権者としての知識と自覚の向上を図る。	授業等を通して、主権者としての意識と知識を高める。	A	2学年集会において、選挙に行き投票する意義を理解させることができた。	早めに計画を立て実施する。
数学科	各科・コースの特徴を活かした授業内容を実践し、生徒それぞれの学力向上を目指す。	授業以外でも寺子屋の実施など生徒個々の到達度に合わせた指導を行い、模試など学外の試験を積極的に利用する。一斉テストを行い有効利用することで学力向上を図る。	A	SS大進コースや文理選抜コースを中心に、模試や学外の試験を受けさせ、意識を高め、学力向上に努めた。	個々に質問できるような環境を整える必要がある。
	数学検定の実施回数を増やし、生徒の数学への興味関心を高める。	補習や教材を充実させることにより事前指導を徹底して行い合格者を増やす。	B	数学検定は1回のみであった。実施にあたり、問題集などを貸出し、質問に答えられるようにできた。	来年度は6月と10月の2回行う予定。
理科	全ての科・コースで理科の基礎学力の定着を図り、学力上位クラスを中心に、新テストにも対応できる確かな科学的思考力の向上を図る。	全科・コースで、教科書内容を一通りを履修し、高校生として学ぶべき必要最低限の基礎学力を習得する。	B	学力の上位クラスでは概ねよいが、基礎学力の定着までは至らなかったクラスが存在した。家庭学習不足が否めない。	宿題の頻度や量を増やすなど、家庭学習に取り組む機会を設ける。
		実験や視聴覚教材等の効果的な活用を図り、学習内容を身近な現象と結びつけることで、自然科学に対する理解を深化させる。	B	演示実験など簡易的なものに数回取り組めただけで十分ではない。機会を増やしたり、代替手段を検討する。	実物を見せる時間が無い際は、資料集や映像資料の有効利用の導入を試みる。
		学力上位クラスを中心に、問題演習、小テストを行う。知識の定着を図り、知識の活用を練習を通して、科学的思考力の向上を目指す。また、特別授業を有効利用する。	A	上位クラスでは問題演習・小テスト等を行うことで、基礎知識の定着を図れた。	特別授業数を増やすなど、より多くの問題演習を行い、さらなる科学的思考力の向上を図る。
保健体育科	体力向上・コミュニケーション能力育成のために。	スポーツテスト実施による体力把握。	A	概ね良い	今年度と同様に行う
		バレー・バスケットを中心とした球技による集団スポーツでの体力の向上とコミュニケーション能力の育成。	A	概ね良い	今年度と同様に行う
		柔道による「心・技・体」の重要性の認識。	A	安全面を重視し、生徒に護身術等を重点的に取り組めた	今年度と同様に行う
	心と身体の育成のために。	「心と身体のバランス」の重要性についての取り組み。	A	概ね良い	今年度と同様に行う
		青春期の「性」に対する考え方の取り組み。	A	概ね良い	学年集会等で行った内容についても授業に取り入れていき、時代のニーズに合わせて授業を行っていく。
		現代の「少子高齢化」・「社会保障」等の諸問題の取り組み。	B	現実問題として生徒達自身には身近に感じてる者と感じられていない生徒との温度差があった	より時事問題や新聞記事等を活用し、現在の重要問題である事を伝えていきたい
	保健授業でのアクティブラーニングの導入。	プロジェクターやPC等を使いグループ学習を取り入れる。	A	昨年度よりは確実に実行できたが、より生徒主導の授業ができるように努める。また、今年度はパワーポイントをより多く使用し、生徒の理解を得られた。	PC教室や視聴覚教室・プロジェクター等をより活用していきたい。

2019年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
外国語科	基礎学力の充実。	生徒の学力レベルに合った習熟度別講座の展開。小テストなどを取り入れた基礎内容の定着。	A	基礎セミナーやDaiichi Standardを有効に活用することができ、結果として基礎学力の向上ができた。習熟度別講座展開により、無理のない授業進行や、講座に合ったテスト展開をすることができた。	基礎学力定着のため、授業開始の活動として、基礎内容の定着のための音読や小テストなどを効果的に取り入れるなど、さらに授業の充実をはかる。各講座の到達目標を定める。
		定着させた基礎内容を応用した問題解決能力の育成。	B	授業やテストに暗唱を取り入れることで、自然と基本的な英文を身に付ける策を取ることはできたが、応用へ活かす点で課題が残っている。	どのように応用させるのか、授業内に運用するための活動の取り入れ方について、実践しながら、研究を進める。
		高等学校基礎学力テストを視野に入れた、教科書を最大限活用する4技能を意識した授業展開。	B	暗唱を取り入れることで、自然と4技能を使うための基礎を身に付けている。本文以外の教科書の利用の仕方について、さらに検討が必要である。	教科書を上手に利用したS技能の授業展開について、実践を通して、研究を進める。
		長期休暇の各講座に適した課題提示と課題内容理解度の確認。	B	休み明けテストの実施と、事前の課題提示ができた。さらに内容の検討が必要である。	学習の方法について分からない生徒が多くいる中で、具体的な課題提示を行い、定期テストと上手に運動させていく。
		ALTとの連携により、生徒の表現する力を補強しながら、自ら発信する力の育成。	A	English Activityなどをカリキュラムに取り入れるなどし、特にスピーキング面において生徒が前向きに取り組んだ。	様々な講座で積極的にALTの活躍場を設け、生徒の4技能向上を目指す。
	進路実現のサポート。	センター・二次対策・私大入試に向けた問題演習と個人指導。	B	問題演習の機会は数多く持つことができたが、個々の志望校対策に課題が残った。また、担任の先生や担当の先生に任せきりになってしまった。	模試等を活用した面談を通して、生徒が主体的に志望校分析をしていくよう促す。また、個々の生徒に合わせた志望校対策を意識して授業を行いたい。
		模擬試験、「高校生のための学びの基礎診断」の活用。	A	各学年コースごとに実力に合った模試を選択し受験させることで自己の学力を把握し、個々に目標設定をする機会を持てた。	細分化された本校コースの特性を見極め、さらにフィットした模試を選定し活用したい。
		GTECの研究および対策・受検指導ならびに思考力に関する研究。	A	初年度のノウハウを生かし日頃の授業で対策を意識した内容に取り組む事ができた。	2年間のGTEC受験で得たノウハウを各種検定対策に応用し、より効果的な指導法を研究していく。
		英検の受験促進および二次試験面接指導。	A	面接指導が功を奏し、英検二次試験で高い合格率を上げることができた。	来年度、英検受験者を増やすような働きかけをし、面接指導も継続して行う。
		教科会として教授法の研究。	B	個々に研修に参加することはできたが、全体として研究するまでに至らなかった。	教科会を通して、授業実践の共有や、各種研修会へ参加し、さらなる知識を身に付けていく。
芸術科	芸術の幅広い活動を通し豊かな情操を養う。(望まし人格の完成)	芸術文化についての理解を深め、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	A	芸術文化が今の時代だからこそ必要であることを理解させられた	地域社会と芸術の繋がりを思考する機会
		互いに批評し合う等言語活動の充実を図る。(鑑賞教育内などにおいて)	A	社会で今求められているコミュニケーション能力の向上を図れた	
		感性を高め、幅広い視野を持ち自己表現していく姿勢を身につける。	A	コミュニケーション能力同様自ら発信していくことの大切さを伝えられた	校内発表を更に強化(展示等)
家庭科 (専門教科)	座学と実習を関連づけた学び。	生徒が自ら課題を見つけ、学び、考える力を身につけさせるため、座学と実習をリンクさせた授業を構築していく。	B	1・2年生の調理理論の授業では、調理実習とリンクした内容にすることができたが、他の授業では課題が残った。	座学と実習の情報を共有し、より実践的な指導を展開していきたい。3年生の調理理論の内容も充実させていく。
	基礎的な知識や技術の習得を図る。	理論を踏まえた実習内容の構築。基礎を反復しながら着実に技術を身につけさせる。	A	1年生の調理実習が週に1回に戻ってしまったが、土曜授業を活用して一定水準の技術を身につけさせることができた。	生徒の応用力を高めていきたい。これまで扱ったことのない食材も積極的に取り入れていく。
	プレゼンテーション能力の向上。	通常授業や特別授業などで発表の機会を増やす。また、プレゼンテーションスキルを高めるための研修を行なう。	A	各学年で発表の機会を設け、生徒主体で進行することができた。よりいっそうのプレゼンテーション能力向上を目指していきたい。	コンクール等に積極的に参加し、他校生の発表から学ぶ。また、校内外でプレゼンテーションを行なう機会をより一層増やしていく。
家庭科 (一般教科)	自立した生活を送るための知識や技術を身につけさせる。	衣・食・住に関する知識の習得のみでなく、実習の充実を図っていく。	A	各分野で、実験・実習を中心に理解を深めることができた。	課題を持って実習を行なうことで、技術を習得させ、自立へと導いていく。
	子どもの発達の特徴を理解し、子どもとの関わり方を学ぶ。	子どもの心身の発達や育児への理解を深め、子どもを養育する力を育む。実際に幼児や児童と触れ合う機会を持つことで、体験的な学習を行う。	A	保育園実習、小学校実習を行なったことで、子どもへの理解が深まり、自己を見つめ直す機会にもなった。	「発達と保育」の授業は本年度で終了であるが、今後も子どもへの理解と関心を深めていくことを望む。
情報科	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる。	情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。(情報モラル)	A	SNSについて、著作権や肖像権について理解が必要。インターネットを安全に活用することができた。	SNSについて、具体的な例も増えているので示すことにより理解向上する。カメラ付きの端末についての理解を向上する。
	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する。	情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解させ(文章処理、表計算)	A	基本できない技術を習得し、思い通りに使いこなせるようにする。	基本的な技術を習得するために、文字を打つという技術をしっかりと習得させていく。
	コミュニケーションを行う能力を養う。	コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けながら理解させるとともに、情報通信ネットワークの特性を踏まえ、情報の受発信時に配慮すべき事項などについて理解させる。(プレゼンテーション)	B	グループワークなどを使い調べ学習や発表をする機会を作りコミュニケーション能力を伸ばす。	プレゼンなどをし、グループの協調性を向上させていく。
美術工芸科	美術工芸を通して生徒1人1人の成長を目指す。	それぞれの分野において徹底した基礎力・知識を身につける。	A	専門的で幅広い多様な内容について理解を深めることができた	
		想像力・思考力・集中力・持続力・体力の向上を図る。	A	様々な機会を通じ造形表現に必要な素養の向上が図れた	
		探究心・向上心をもって制作する姿勢を身につける。	A	専門的な研究を多く取り入れた結果生徒自らの意欲が大きく向上した	意欲に応じ全国展覧会への挑戦をサポート
		幅広い視野を持ち自己表現していく姿勢を身につける。	A	自然と美術・生活や社会の中の美術について深く学ぶことができた	